

令和6年10月12日

所属長・代表者 様

大分県柔道連盟
会 長 穴井 隆信
(公印省略)

第2回大分県中学生柔道一年生大会の開催について（ご案内）

清秋の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび標記大会を、下記の通りに開催する運びとなりました。つきましては、ご多忙のこととは存じますが、大会要項をご参照の上、多くの選手の参加を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 名 称 第2回大分県中学生柔道一年生大会
- 2 主 催 大分県柔道連盟
- 3 主 管 大分県中学生柔道一年生大会 実行委員会
- 4 日 時 令和6年12月22日（日曜日）

受 付	8：30	監督会議	9：10
開始式	9：30	大会開始	9：50
閉会式・表彰	試合終了後		
- 5 会 場 レゾナック武道スポーツセンター 武道場
- 6 参 加 費
 - (1) 参加選手一人あたり1,000円の参加費を当日受付にて徴収する。
 - (2) 参加選手には実行委員会により傷害保険に加入する関係で、当日出場しない生徒の参加費については返金しない。

7 参加資格

- (1) 令和6年度全日本柔道連盟に登録している、大分県内在住の1年生とする。
- (2) 出場選手は、当該校の所属長または当該チームの代表者が出場を認めている者、かつ保護者の了承を得ている者とする。また、半年以上の修行経験を有する者とする。
- (3) 大会参加にあたって参加中のけが等について、実行委員会で応急処置は行いが、その後は一切の責任を負わないとすることに了承している者とする。
- (4) 監督およびコーチは、校長・教職員・部活動指導員、地域スポーツクラブ（道場）の指導者とする。
- (5) 学校部活動の場合、監督は全日本柔道連盟公認指導者資格を有する者とする。また、コーチは大分県中学校体育連盟に登録済の外部指導者に限る。地域スポーツクラブ（道場）の場合、監督およびコーチは全日本柔道連盟公認指導者資格を有する者とする。

8 参加制限

(1) 団体戦

1. 単一校（単一団体）で編成されたチームとする。男女ともに3人制の団体戦とする。
2. 単一校（単一団体）から上限3チームの参加を可とする。その際、申込書には「〇〇中A」、「〇〇中B」と記載する。なお、1選手1チームのみの登録とする。
3. 監督・コーチは各1名、選手は男女ともに3名、補員2名以内とする。選手2名以上での出場を認める。
4. 選手が3名に満たない場合は先鋒を空とし、残りを体重順に編成する。
5. オーダーは最も体重の重たい者を大将とし、以下体重順に編成する。
6. 試合ごとのメンバーの入れ替えは自由とするが、体重順に編成する。
7. 所属する選手数の関係により、単一校（単一団体）で団体戦に出場できない場合に限り、合同チームを特別に認めることもある。その場合は事前に実行委員会の松林(080-5282-2811)まで連絡をする。合同チームの編成については、以下の点を確認する。

○本大会における、合同チームの編成例

A 中学校（所属選手が男子1名）、B 道場（所属選手が男子1名）の場合、AとBの選手同士が1つの合同チームを編成することができる。単独で2名以上が所属しているチームとの編成は基本的には認めない。（ケースにより柔軟に対応）

(2) 個人戦

1. 男子

- ①ニューフェイス 軽量級の部（柔道経験半年以上一年未満かつ 66 kg級以下の選手）
- ②ニューフェイス 重量級の部（柔道経験半年以上一年未満かつ 66 kg級以上の選手）
- ③軽々量級の部（50 kg級・55 kg級の選手）
- ④軽量級の部（60 kg級・66 kg級の選手）
- ⑤中量級の部（73 kg級・81 kg級の選手）
- ⑥重量級の部（90 kg級・90 kg超級の選手）

2. 女子

- ①ニューフェイス 軽量級の部（柔道経験半年以上一年未満かつ 52 kg級以下の選手）
- ②ニューフェイス 重量級の部（柔道経験半年以上一年未満かつ 52 kg級以上の選手）
- ③軽々量級の部（40 kg級・44 kg級の選手）
- ④軽量級の部（48 kg級・52 kg級の選手）
- ⑤中量級の部（57 kg級・63 kg級の選手）
- ⑥重量級の部（70 kg級・70 kg超級の選手）

3. ニューフェイスの部に該当する選手であっても、通常の軽々量級の部～重量級の部に
出場しても構わない。ただし、技能差等を考慮し、慎重に判断した上で決定する。

9 競技方法

（1）団体戦

- 1. 予選リーグを行い、各パートの上位チームによる決勝トーナメント方式で行う。ただし、申込チーム数の関係で総当たり方式またはトーナメント方式で行う場合もある。
- 2. リーグ戦における、順位決定は以下の通りとする。
 - ① チーム間における勝ち、引き分け、負けの率による。
 - ② ①において同等の場合は、勝ち数の合計による。
 - ③ ②において同等の場合は、勝ちの内容により決定する。
 - ④ ③において同等の場合は、負け数の合計による。
 - ⑤ ④において同等の場合は、負けの内容により決定する。
 - ⑥ ⑤において同等の場合は、任意代表1名による代表戦を行い決定する。
- 3. トーナメント戦の勝敗は、以下の通りとする。
 - ① チーム間における勝ち点の数による。
 - ② ①において同等の場合は、勝ちの内容による。
 - ③ ②において同等の場合は、任意代表1名による代表戦を行い決定する。

（2）個人戦

- 1. トーナメント方式で行い、勝敗を決定する。得点差がない場合は、時間無制限の延長戦（ゴールデンスコア方式）により決定する。ただし、申込選手数の関係で、総当たり方式で行う場合もある。

10 競技規則

- （1）国際柔道連盟試合審判規定および国内大会における「少年大会特別規定」、合わせて本大会の申し合わせ事項による。

※2023年6月1日に発出された「国際柔道連盟試合審判規程の解釈変更に伴う国内大会の適用について」を適用する。

※第54回全国中学校柔道大会申し合わせ事項（団体戦予選リーグの内容が同等の場合の決勝トーナメント出場チームの決定方法、代表戦について）を適用する。

- (2) 勝敗の判定基準は、団体戦については「一本」、「技あり」、または「僅差（指導の差2）」とする。個人戦における優勢勝ちの判定基準は、「技あり」または「僅差（指導の差2）」以上とする。指導の差1以内の場合は、時間無制限の延長戦（ゴールデンスコア方式）により勝敗を決する。（新たな指導の差がついた時点で試合終了）
- (3) ニューフェイスの部（個人戦）については、ケガ防止の観点から以下の特別ルールを適用する。
1. 試合中における軽微な指導について、1回目は口頭による指導とし、ペナルティは与えない。（つまり、指導累積による反則負けは通算4回目の指導となる）
 2. 時間無制限の延長戦（ゴールデンスコア方式）は行わず、旗判定で勝敗を決定する。
- (4) 団体戦（予選リーグ・決勝トーナメント）の代表戦は任意の代表とし、個人戦の勝敗の判定基準と同様とする。
- (5) 団体戦および個人戦ともに試合時間は3分間とし、延長戦は時間無制限とする。
- (6) 柔道衣にゼッケン（学校名・チーム名・名字入り）を次の要領で縫い付けておくこと。
1. 布地は白とし、サイズは横30cm～35cm、縦25cm～30cmとする。
 2. 名字（姓）は上側2／3、学校名は下側1／3とする。
 3. 男子は黒色、女子は濃い赤色とし、はっきりと記名する。
 4. 縫い付ける場所は、後襟の下から5cm～10cm下部の位置とし、周囲と対角線を強い糸で縫い付ける。
 5. 女子は、上衣の下に白色または白に近い色の半袖で無地のTシャツまたは半袖レオタードを着用する。なお、Tシャツのマーキングについては、全日本柔道連盟が定める規定（平成25年4月1日施行）に準じる。
 6. 柔道衣コントロールの際は、試合時に使用するサポーターを着用する。
 7. 個人戦において、試合が連続して行われる場合は、選手の身体的負担を考慮し、試合終了から次試合まで5分間の休憩時間を設定する。

1.1 組み合わせ

- (1) 団体戦、個人戦ともに実行委員会にて、厳正に抽選を行い決定する。

1.2 申込方法

- (1) 申込期限は、令和6年11月22日（金）の17時までとする。
- (2) 大分県柔道連盟のホームページの「大会案内」のタブをクリックし、申込書をダウンロードする。必要事項を入力後、データはメール送信、所属長もしくは代表者の押印をした紙媒体は郵送する。

申込先

- | | | | |
|----------|-------------------------------|----------------|--------|
| ・ 郵送先 | 〒879-1506 | 速見郡日出町 2627 番地 | |
| | | 日出町立日出中学校 | 松林 真 宛 |
| ・ データ送信先 | matsubayashi-makoto@oen.ed.jp | | |

1.3 その他

- (1) 柔道衣（ゼッケンを含む）は、全日本柔道連盟柔道衣規格に合格した柔道衣（上衣・下ばき・帯）を着用する。（IJF：赤粋・全柔連：赤番号）
- (2) 脳震盪の対応について指導者および選手は下記事項を遵守する。
 - 1. 大会1か月前以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察・出場許可を得る。
 - 2. 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
 - 3. 練習再開については、脳神経外科の診察・許可を得る。
 - 4. 当該選手の指導者は大会事務局および全日本柔道連盟に対し、書面により事故報告書を提出する。
- (3) 皮膚真菌症（トングランス感染症）について、発症の有無を各所属の責任において必ず確認する。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において適切な治療を受けること。もし、出場選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、本大会への出場ができない場合もある。
- (4) 全日本柔道連盟「試合場におけるコーチの振る舞いについて」を適用する。
- (5) 団体戦、個人戦ともに計量は実施しないが、選手の安全面や競技上の公平性を確保するため、各所属において、申込書には正確な体重を記載する。